

平成22年一級建築士試験「設計製図の試験」の課題

小都市に建つ美術館

要求図書

- 平面図兼配置図（縮尺1/200）
- 平面図（縮尺1/200）
- 断面図（縮尺1/200）
- 梁伏図（縮尺1/200）
- 面積表
- 計画の要点等

7月23日に建築技術教育普及センターのサイトに掲載された平成22年度の1級製図試験の課題は以上の通りである。一級とるぞ！.Netとして気付いた点を以下に述べる。

- 1) 去年 H.21 は大幅な出題形式の変更があり、用途として複雑な性格のものを避け、「貸事務所」が選定されたのに対し、今年は「小都市に建つ美術館」となった。事務所が民間とすれば、美術館は公共施設のイメージが強く、前者が特定建築物で基準階構成、後者は特別特定建築物で2層構成と予想されることから、様々な点で好対照の課題選定となった。
- 2) 美術館としては、H.6の「地方都市に建つ美術館」以来の出題となる。
当時は構造をRC造（一部S造可）と指定され、無柱空間の室が2階と重ならない様誘導するものだったが、今年においては、構造自由となる可能性が高く、展示室（一般的には中央に柱があってもかまわない。）などの重層関係パターンと構造は多様となるであろう。
- 3) 計画においては、美術品の搬入（車寄り付き、荷解室）から収蔵庫、展示室に至る繋がり、客用スペースと管理の区分け、及び外部に対するセキュリティが重要となる。また、展示室の無柱条件、天井高指定、採光の有無の指定なども有り得るので、訓練が必要となろう。
- 4) 美術館の性格から、関連する施設としてはレストラン、喫茶室、売店などが一般的であるが、ブロンズ像などの屋外展示、住民参加型の専用スペースなど広範な想定ができる。
- 5) 要求図書について
今年の特徴として、大改編のあった去年に比べ、表現において簡略化されたと言える。
○平面図兼配置図、および平面図に階の指定がない事から、敷地条件によっては、地下1

階+1階の構成も有り得る。○**断面図**については例年通り○**梁伏図**は指定された階のRC柱・壁・外周を実線表記、床梁を透視した点線表記する見下げ表記となるものと思われるが、天井梁を実線表記する見上げ表記も有り得る。また、非耐力壁を受ける小梁、及び1スパンを分割する小梁については、断面図との整合性が保たれるよう留意する。○**面積表**(+凡例、構造部材表等)については、去年の形式を踏襲するものと思われる。○**計画の要点等**については、概ね去年のような出題形式となることが予想されるが、センターの「・・・見直しの具体的対応」にある様に、「記述(又は簡易な図示)」とある事から、一部地下のエスキース記入も有り得る。いずれにせよ、様々な観点から10問程度を50分前後で書き切ることが要求されるため、エスキース終了後に、図面より先に書くか、設問欄外に書くべき項目だけでもメモしておく事が重要と考える。旧来のようにワンパターンの記述では、自案に即した整合性のある、且つ各設問に対し妥当性のある解答とはなり難いので、練習課題を利用した広範な学習により脳内ストックを豊富にした上で、矛盾のない組み合わせをその場で編み出す能力が必要となる。

以上の観点から、一級とるぞ！.Netでは7月末から9月下旬までに5課題をアップロードする予定です。